

新規採用予定職員研修会

東部支部

月日 平成二十九年二月二十二～二十三日
会場 三島市 箱根の里少年自然の家
参加者 五六名

東部支部では、三島市箱根の里少年自然の家で一泊二日の日程で行いました。

開会式終了後すぐに野外活動のポイントラリーを行い、昼食は飯盒炊飯でカレーを作りました。野外活動、飯盒炊飯という協同活動で、班の仲間とのコミュニケーションも深まり、活動にまとまりができました。

一日目の午後の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を教えてくださいました。

また、夕食後に行われた交流会の「室内オリンピック」では、実行委員によるお楽しみのもと、研修生は生き生きとした表情で競技に取り組みました。

二日目の講義は「保育園にとって一番大切なこと」を県保育所連合会 内藤栄一副会長、「保育士にとって一番大切なこと」を、県保育士会 吉川慶子副会長よりそれぞれ保育園、保育士の使命と役割、職員としての基礎知識を教えてくださいました。

そして、「SN

S利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」をNPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表長澤弘子先生より、近年問題になっているSNS利用時の倫理観や危険性をわかりやすく教えていただきました。

最後に「現場からのアドバイス」

(保育の楽しさを知ろう)と題して、ワークショップを行いました。グループでの活発な討議や、実行委員の先生方のアドバイスを真剣に耳を傾けていました。

この研修を通して改めて社会人になるという自覚を強く感じたことと思います。

社会人として、また、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 富士宮 富丘保育園

足立和俊



中部支部

月日 平成二十九年二月十四日～十五日
会場 静岡県立焼津青少年の家
参加者 八四名

焼津青少年の家に十四日の朝、バス二台が到着しました。おはようございますという元気な声と共に、荷物を抱えた研修生たちが入ってきました。いよいよ研修会のスタートです。初めに研修所員さんの挨拶、オリエンテーションがあり、研修生は緊張の面持ちで聞いていました。この研修では、各班十名程度の班別になり、それぞれ班長や食事係等の役割を決めて二日間集団行動を取ります。講義一は、神野博行中部支部長の「保育所等の使命と役割」というテーマで、保育所等の法的な位置づけや社会的な使命と果たす役割などについて講義がありました。

講義二では、海野美代子県保育士会中部支部長から「保育者としての役割」というテーマで、保育者として勤務規律や危機管理意識について学びました。実際に講師の保育園で起こったことの話には真剣に耳を傾けていました。また、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿や活動している様子をDVDで見せてくれました。午後には、以前にこの研修会に研修生として参加し、現在焼津の明星保育園で保育士をしているお二人から実際に体験している仕事のお話を聞かせていただき研修生は興味深そうに聞いていました。その後は、

同じ明星保育園の櫻井英世園長先生の手遊び・歌遊びの実技指導があり、研修生は身近に感じて楽しそうでした。次に、今年度はウォークラリーを初めて取り入れました。四キロコースを各班がコマ図を持ってチェックポイントを通過するもので、早いグループは一時間程度で戻ってきました。ただ、各チェックポイントに立ってもらった実行委員には少し寒かったようでした。

夕食後は、各宿泊室で、実行委員が研修生の不安や悩みを聞いて助言や勇気づけをしてくれて貴重な時間を持つことができました。その後は各班の班長さんと実行委員が集まり一日目のまとめの話し合いをしました。

二日目は朝の集いの後、講義三、「素敵な紙芝居の世界」というテーマの研修を行いました。そして最後の講義四は、土方良子先生による「私が目指す保育者を明確にする」というテーマでした。少人数のグループになって



自己紹介をしたり、テーマを決めて話し合いをしたりと一人ひとりが積極的に関わりを持つようにしていく雰囲気作りは印象的でした。研修生にとっては初めての集団生活、また時間に厳しい盛りだくさんの研修でしたが、なかなか体験できない貴重な二日間だったと思います。この体験を四月からそれぞれの職場で生かし、くじけずに常に希望を持って頑張ってくれる様、期待します。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。

実行委員長 ゆりかご保育園 神野博行

西部支部

月日 平成二十九年二月十五日～十七日
会場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 百三名

二日目、県保育士会下原会長の講義。保育者としての自覚と責務を学びました。続いて現代だからこそ必要な「SNS利用時の倫理感」。午後はしつかり体を動かして、夜は「現場からのアドバイス」二日間です。深まった絆は、率直な意見・疑問など言いやすい環境を作り、時間いっぱいまで先輩方からたくさんのお話を聞きました。

三日目、「社会人として一番大切なこと人間関係と服務接遇」二日間の講義を受けたうえで、これから保育士・保育教諭になるという自覚が芽生えてからの講義に、研修生の意識も違ったのではないのでしょうか。世の中には様々な園があります。もし、挫折したら、新採研での気持ちの思い出ししてください。そして、職場を変えたとしても、この素晴らしい仕事に誇りを持って生涯続けて欲しいと思います。社会人として、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待します。

実行委員長 ルンビニ保育室花びら
野中 徹

